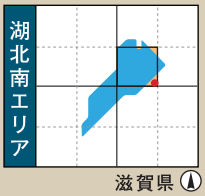
名勝
国指定

青岸寺庭園（せいがんじていえん）

米原町米原　昭和9年12月28日指定



青岸寺は、湖北と湖東の境目を守る浅井氏の城「太尾山城」の麓にあります。山の斜面を利用して造られた、築山林泉式枯山水の大庭園で、巨岩・奇石を多数配した庭は、四季折々に移ろう山肌にとけ込み、訪れる人々を、深山幽谷の世界に誘ってくれます。

当時のできごと	
1359年	新千載和歌集なる
1600年	関ヶ原の戦い
1687年	生類憐みの令が出される



青岸寺庭園

青岸寺庭園の変遷

青岸寺は、延文年間（1356～1361）に「ばさら大名」として名高い近江守護佐々木導誉により開かれ、太尾山米泉寺と称していましたが、その後荒廃し、江戸時代の始めに彦根藩井伊家により再興され、吸湖山青岸寺と改められます。この時、立派な庭園が造られたようですが、延宝5年(1677)、彦根城内に玄宮楽々園（学習シートNo.078）を整備する際に、この庭石が運び去られ、一旦破壊されてしまいます。その後、楽々園の作者である彦根藩士香取氏が、青岸寺に参禅していた縁により、庭の再興を志し、現在見られる庭を造り上げたと伝えられています。



蓬莱山に架かる石橋



蓬莱山の石組

庭園について

1000㎡以上にも及ぶ広い庭園一面に、多数の石が豪華に配置されています。右手奥の高所に三尊石を兼ねた二段構成の枯滝石組を力強く組み上げます。滝組から水がほとばしり、中央の池に流れ込み、ゆったりとした大海に変わっていく様子が、石組と苔により表現されています。海には亀の上に鶴が乗った様を石組で表す蓬莱島と、見事な石組の出島が配されます。蓬莱島には切石の反り橋が架けられています。

江戸時代初期の豪華で伸びやかな気分をよく伝える庭園で、浅井町の池氏庭園（学習シートNo.103）との築庭技法の共通性が指摘されています。白い石と、緑の苔、四季折々に変化する背景の木々との色彩、造形の構成が素晴らしく、特に小雨に煙る様は、山水画の中に入り込んだような心持ちにしてくれます。



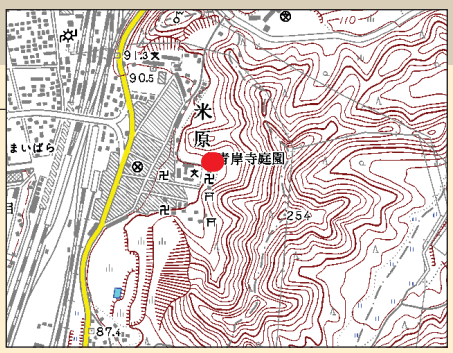
蓬莱山より滝石組を見る

関連する文化財

名勝玄宮楽々園（彦根市）	学習シートNo.078
名勝福田寺庭園（近江町）	学習シートNo.088
県名勝来照寺庭園（近江町）	学習シートNo.101

もっと深く知りたい

米原町教育委員会　☎0749-52-6632　坂田郡米原町下多良3-3



青岸寺庭園へのアクセス

ＪＲ琵琶湖線　米原駅下車
北陸自動車道　米原インター

【参考文献】〔日本庭園史体系〕社会思想社　〔滋賀の美 庭〕京都新聞社

滋賀県教育委員会事務局文化財保護課　平成16年3月